

News Letter

このニュースレターでは、大学院教育支援機構、国際高等教育院、学務部に関する最新の活動や取り組みについてお知らせします。

留学生のリクルーティング

インドネシアで3日間にわたるリクルート活動を展開

2025年9月18日から22日にかけて、本学の教職員がインドネシアを訪問し、3つの留学フェアの実施に加え、在インドネシア日本国大使館への訪問、インドネシア政府奨学金(LPDP)担当者との面談、現地同窓会との交流、

そしてIPB大学(ボゴール農業大学)との学生交流協定(SEA)締結記念会合を行いました。これらの取り組みは、理学研究科、農学研究科、生命科学研究科、地球環境学堂の教員およびASEAN拠点の協力のもとで実現しました。

●在インドネシア日本国大使館での意見交換(9月19日)

インドネシアと日本の間での留学生交流のさらなる活性化に向けた意見交換を行いました。他大学によるインドネシアでのリクルート活動の事例を紹介いただくなど、今後の展開を考えるうえで大変有意義な機会となりました。



●インドネシア大学での留学フェア(9月19日)

学生交流協定校のひとつであるインドネシア大学において留学フェアを開催しました。日本および本学への留学に関心を持つ100名以上の学生が参加し、教員による説明に熱心に耳を傾けました。質疑応答では時間ぎりぎりまで質問が続き、学生の高い関心と熱意を感じられる活気あふれるイベントとなりました。



●事前選抜型リクルートイベント(9月20日)

事前選抜型のリクルートイベントを開催しました。インドネシア国内の主要大学から約200名の学生・卒業生の応募があり、書類選考を経て選抜された約30名が参加しました。教員との個別面談を通じて、本学での学びや研究への理解を深める貴重な機会となりました。



(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

● HAKU・ジャカルタ京大吉田会 合同同窓会(9月20日)

大学院教育支援機構とASEAN拠点の共同主催により、インドネシアからの元留学生による同窓会(HAKU)と、現地在住の日本人卒業生によるジャカルタ京大吉田会との合同同窓会を開催しました。約50名が参加した夕食会では、再会を喜び合いながら交流を深め、本学とインドネシアとの絆をあらためて確認する有意義な時間となりました。



● IPB大学(ボゴール農業大学)との学生交流協定(SEA)締結記念会合(9月21日)

IPB大学との学生交流協定(SEA)締結を記念する会合を開催しました。平島 崇男 大学院教育支援機構長から協定書が手渡され、両大学の代表者間で学生交流のさらなる発展に向けた活発な意見交換が行われました。



● 同窓会の協力による「留学フェア」(9月21日)

大学院教育支援機構とASEAN拠点の共同主催により、日本留学や本学で学ぶ意義を広く伝えるための留学フェアを開催しました。約100名の学生が参加し、さまざまな分野で活躍するインドネシア人卒業生4名が登壇しました。自身の経験やキャリア形成について熱意あふれる講演を行い、参加者はその実体験に真剣に耳を傾けていました。



今回の渡航を通じ、インドネシアとの交流基盤をさらに強化するとともに、将来の優秀な留学生の獲得に向けた大きな一歩となりました。

留学生のリクルーティング

インドからの優秀な留学生獲得に向けてIIT Kanpur校とIIScを訪問

大学院教育支援機構では、大学院課程の留学生増加を目的に、2024年度より短期研究室受入プログラム「Kyoto University Short-Term Academic Research Program (KU-STAR Program)」を実施しています。2025年5月から7月にはKU-STAR Program for India 2025を実施し、31名の学部・大学院生を受け入れました。

インドからの優秀な留学生獲得のため、2025年9月15日

から21日にかけて、Indian Institute of Technology (IIT) Kanpur(インド工科大学カーンプル校)と Indian Institute of Science (IISc)(インド科学大学院大学)に、村上 章 総合生存学館長(大学院教育支援機構副機構長)をはじめとする6名が訪問しました。今回の訪問は、両大学との学生交流・学術交流分野の更なる連携強化を目的として、国際部門のトップや教員との面談、学生向けの説明会や講義を実施しました。

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

●カーンプル(9月17日)

IIT Kanpur校では、国際担当理事である Bushra Ateeq先生と面談し、学生・研究交流の促進について意見を交換しました。2024年10月の第三回日印大学等フォーラム以降の進捗として、締結した大学間学生交流協定(SEA)、KU-STAR Program、インド若手科学頭脳循環プログラム(JST LOTUSプログラム)の進捗を確認し、連携が順調に進展していることを確認できました。その後、村上総合生存学館長は土木研究科の教員とも面談し、学術交流について意見交換を行いました。

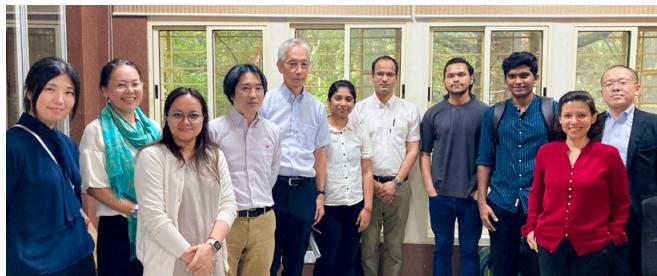


また別会場で、大学院教育支援機構アドミッション支援室が、大学院説明会を実施しました。70名近くの学生が参加し、博士後期課程、奨学金、KU-STARなど具体的な質問が相次ぎました。また、登壇したKU-STAR卒業生からは、「京大での2ヶ月間の研究は、IITKでの研究の1年以上の成果だった」という非常に前向きなフィードバックがあり、本学の研究環境の魅力が学生に具体的に伝わっていることが分かりました。



●ベンガルール(9月18日～19日)

IIScでは、国際室のAttreyee Ghosh准教授らと、過去の面談以降に締結された大学間学生交流協定(SEA)やKU-STAR Program、総合研究推進本部のL-Insightが2025年11月に実施する日印豪の学術交流イベント等の進捗を確認しました。また、本学大学院留学の推進について意見交換もしました。



その後、土木研究科の学生へ、藤澤 和謙 農学研究科教授とSharma Vikas 農学研究科特定助教がそれぞれ講義とJST LOTUSプログラムの説明を行い、学生は熱心に耳を傾けていました。



また、別会場で実施した大学院説明会へ、14名程が参加しました。参加者は限定的であったものの、多くの学生が説明会終了後の個別相談にのこり、出願手続きや奨学金についてなど、具体的に質問していました。



この他、ベンガルールではジェトロ・ベンガルール事務所やトヨタ・キルロスカ・モーターとも意見交換を行い、インドにおける日本企業による高度人材獲得の課題と展望について貴重な知見を得ました。

今回の訪問で得られた知見を活かし、KU-STAR Programだけではなく、他の日印学術交流プログラムの相乗効果を活用しながら、インド側も望む双方向の学生・学術交流を深化させていき、インドからの優秀な留学生獲得に向けた取り組みを加速させていきます。

留学生のリクルーティング

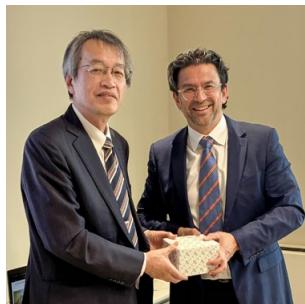
オーストラリアにおける大学間交流促進のため、3大学を訪問

2025年8月24日から8月31日にかけて、國府 寛司 教育、学生、入試担当理事を筆頭に、国際教育交流課と大学院教育支援機構の教職員が在メルボルン日本国総領事館、メルボ

ン大学、モナシュ大学、在オーストラリア日本国大使館、オーストラリア国立大学を訪問しました。本訪問は、教育・研究における相互交流の促進を目的として実施されました。

●在メルボルン日本国総領事館およびメルボルン大学を訪問（8月26日）

8月26日午前中には、在メルボルン日本国総領事館を訪問し、現地大学の動向や日本人留学生への支援、本学の活動に関する情報を共有しました。午後はメルボルン大学を訪問し、短期インターンシッププログラム「KU-STAR Program」の学生向け説明会を実施しました。参加学生からは多数の質問が寄せられ、プログラムへの関心の高さがうかがえました。その後のミーティングでは、交換留学および短期プログラムの拡大や、学術・教育連携の現状と展望について協議が行われました。



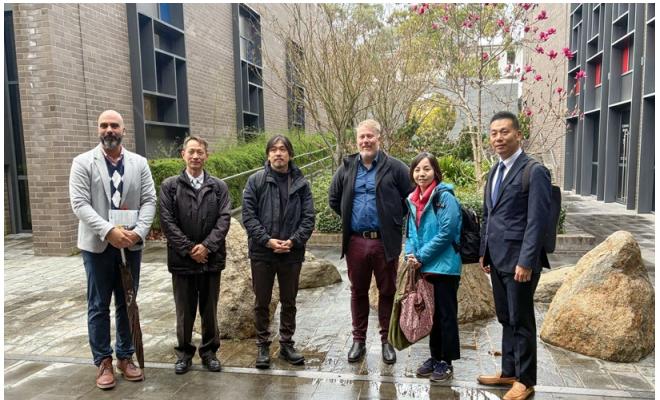
●モナシュ大学を訪問（8月27日）

8月27日にはモナシュ大学を訪問し、両校の国際的な取組の紹介に加え、学生・研究者交流の可能性について意見交換を行いました。これまでモナシュ大学との交流は主に研究者個人間に限られていましたが、本訪問を契機に、学生交流協定の締結をはじめ、大学間パートナーシップの構築に向けて協力関係を強化していくことが確認されました。



●在オーストラリア日本国大使館およびオーストラリア国立大学を訪問（8月28日）

8月28日には、午前中には在オーストラリア日本国大使館を、午後にオーストラリア国立大学を訪問しました。大使館では、本学の派遣・受入れプログラムやオーストラリアの大学との交流状況を報告し、支援を依頼するとともに、現地の大学や学生の傾向と、日本の大学に対する意識について情報を収集しました。オーストラリア国立大学においては、KU-STAR Program の実施および交換留学プログラムの拡充に向け、担当者と綿密な意見交換を行いました。



本訪問を通じて、オーストラリアの各大学との学生・学術交流の拡大に向けて具体的な協議を行うとともに、有意義な情報を得ることができました。今後、持続的かつ強固なパートナーシップの構築と、オーストラリアでの本学のプレゼンス向上を目指して、得られた知見を踏まえて現行のプログラムの充実化と新たな取組の検討・実施を進めていきます。

国際教育支援

2025年のアムジェン・スカラーズ・プログラムが終了

理系学部生を対象とするサマリサーチプログラム「アムジェン・スカラーズ・プログラム」を、今年も6月6日から8月7日まで実施しました。アジアの大学に在籍し研究者を志す15名のスカラーが、8部局の研究室で最先端の研究に取り組みました。研究の合間に文化体験や研究所見学、大学院進学セミナーなどを通して京都および本学への理解を深めました。8月1日の成果発表会に続き、**8月5・6日にはアジア合同シンポジウムを本学で開催し、本学スカラーが優秀ポスター賞1位を受賞しました。**

本プログラムは、スカラーのみならず受入れ研究室や本学の学生にとっても刺激に満ちた交流の機会となっています。10月からは阿部竜 工学研究科教授がプログラムディレクターを務め、新体制のもとで2026年度募集および受入れに向けた準備を進めています。国際的なネットワークの構築と、意欲ある学生の挑戦を支える環境づくりを今後も推進していきます。



国際教育支援

夏期・短期派遣留学プログラムを実施

2025年8月から9月にかけて、5件の本学主催・短期派遣留学プログラムを実施し、米国（ワシントンD.C.・ニューヨーク・サンフランシスコ）の国際機関、教育機関等）、米国（フロリダ大学）、インド（インド工科大学ハイデラバード校）、以下IIITH)、香港（香港中文大学）、ベトナム（ベトナム国家大学ハノイ校）へ**合計51名の本学学生を派遣しました。**

● Kingfisher Global Leadership Program (8月29日～9月13日)



本プログラムは、久能祐元理事やワシントンD.C.京都大学同窓会の協力を得て企画され、同窓生を中心に米国ワシントンDCに設立された京大コラボ(Kyodai Collaborative)と本学が連携して実施しています。今年度は**過去最多の122名の応募者から選ばれた10名が参加しました。**参加学生は米国の主要3都市を訪れ、世界銀行、国際連合、Googleなどの国際機関や企業を訪問し、現地のスペシャリストとの対話を通してリーダーシップについて学び、将来のキャリアについて考えました。米国で活躍する本学同窓生との交流も、刺激になったようで、ネットワーキングにも積極的に励んでいました。京大コラボからの参加費用支援もあり、国際的なキャリアを目指す学生にとって非常に魅力的なプログラムです。



(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

●フロリダ大学サマープログラム(8月31日~9月15日)

本プログラムは、本学と活発な学生交流を行っているフロリダ大学工学部と本学とが連携し、フロリダの生態系、文化交流の歴史、宇宙工学という現地特有のテーマについて学際的に学ぶことを目的に実施する、今年度から開始したプログラムです。応募者45名から選抜された10名が参加しました。参加学生は、各分野の専門家による講義に加え、州立公園に指定されているシルバースプリングスや現役のロケット発射場であるケネディー宇宙センター等を視察しました。また、プレゼンテーションに特化した実践的英語の授業も履修し、最終日には自ら選んだテーマについてフロリダ大学の学生と共同発表を行いました。休日にはフロリダ大学のアメリカンフットボールの試合を観戦するなど、本プログラムでしか体験できない貴重な経験を得ることが出来ました。



●インド工科大学ハイデラバード校(IITH)サマープログラム(9月7日~9月14日)



本プログラムは、日印産学研究ネットワーク構築支援プロジェクトフェーズ2(FRIENDSHIP 2.0)と本学とが連携し、本学学生がIITHを訪問し、IITHの学生とともにDeep-tech分野における起業家精神を学ぶことを主な目的として実施する、今年度から開始したプログラムです。応募者53名から選抜された10名が参加しました。参加学生は、IITH構内の講義に加えて、ハイデラバードに進出している日本企業や、インドのスタートアップ支援機関(T-hub)も訪問し、急成長を遂げるインドのビジネス環境を肌で感じるとともに、自身のキャリアを考える貴重な機会になりました。1週間という限られた時間の中でも、積極的に学生同士意見を交わし、最終日には本学学生による発表が行われ、学びの成果を共有しました。プログラムには、ハイデラバードの歴史地区視察、ヨガ体験、IITHの研究室見学などの文化・学術的体験も盛り込まれており、起業マインドに加え、インドの多様な文化や歴史についても多角的に学ぶことができました。IITHとは、2025年2月に大学間学生交流協定を新たに締結し、交換留学による学生交流も可能となりました。今回の短期プログラム実施を契機として、今後の更なる相互学生交流に繋がることが期待されます。



●香港中文大学/ベトナム国家大学ハノイ校サマープログラム(8月3日~8月24日および9月7日~9月21日)

本プログラムは、本学において現地語を事前に学習したうえで、派遣先協定校において、現地語や英語で文化・社会等についての授業を受けるとともに、現地学生との共同発表など様々な交流を行います。全学共通科目「多文化教養演習：見・聞・



知」の一環として実施され、要件を満たした学生には2単位が付与されます。今年の参加者は、日本と現地の学生の政治意識の比較や、食文化の違い、等様々なテーマを設定して現地で調査を行い、最終日にプレゼンテーションを披露しました。

今年度は香港中文大学へ14名が、ベトナム国家大学ハノイ校へは7名が参加しました。春期には、中国、台湾、韓国、インドネシア、スペイン、オーストリアで同様のプログラムを実施予定です。



国際教育支援

ウクライナ学生受入れプログラムの新規参加学生が来日

本学では、**ウクライナの危機的状況が続くなかで、2022年4月6日付け**湊長博 総長名の「ウクライナからの学生受入れについて」に基づき、本学の学術交流協定校である、キーウ工科大学およびタラス・シェフチェンコ記念キーウ国立大学からの学生受入れプログラムを実施しています。

2025年9月29日に国際教育交流課が実施したオリエンテーションには、2025年10月より本プログラムに参加する学生18名と、すでに本学で学んでいる本プログラムの継続学生1名が参加しました。

ウクライナ学生に対しては、多方面から多くの寄附をいただいた「ウクライナ危機支援基金」を活用し、日本への渡航費用や毎月の生活費支援を目的とした奨学金の支



給を実施しています。学内でのサポートについても、各学生に学修指導等を行うメンター教員を配置するとともに、学生が英語による授業の履修だけでなく、日本語の学修もできるよう、学生のレベルに応じたクラスを提供しています。また、学生ピアチューターによる日々の相談や手続き等のサポートを行っています。

今後も学生が安心して学修を継続できるよう、サポートを続けていきます。



国際教育支援

国際交流イベントおよびサービス紹介

国際教育交流課では、ピアチューター（学生オフィスアシスタント）とともに、日本人学生と留学生が交流できるイベントやサービスを実施しています。今回は、うち3つのイベント・サービスを紹介します。

●国際交流イベント「協定校ひろば」(11/14開催)

海外留学支援の一環として、本学の交換留学予定者と海外の協定校からの交換留学生との交流や、本学学生に交換留学について興味を持ってもらうことを主な目的として、交流イベント「協定校ひろば」を毎学期開催しています。

2025年後期は、11月14日（金）の昼休みに開催します。約150の協定校からやってきた交換留学生による英語でのプレゼンテーション（大学や自国についての紹介）や、フリートークタイムが設けられます。**留学や国際交流に興味のある学生は、ランチ持参にてお気軽にお越しいただけます。**
参加登録不要です。

日時：2025年11月14日（金）12:10-13:00

会場：国際高等教育部棟1階 ホール

参考：これまでに開催されたイベントの様子は以下ウェブサイトでご覧いただけます。



<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/students2/campus/peer/events>



(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

●国際交流イベント「Exchange Students Meet-up!」

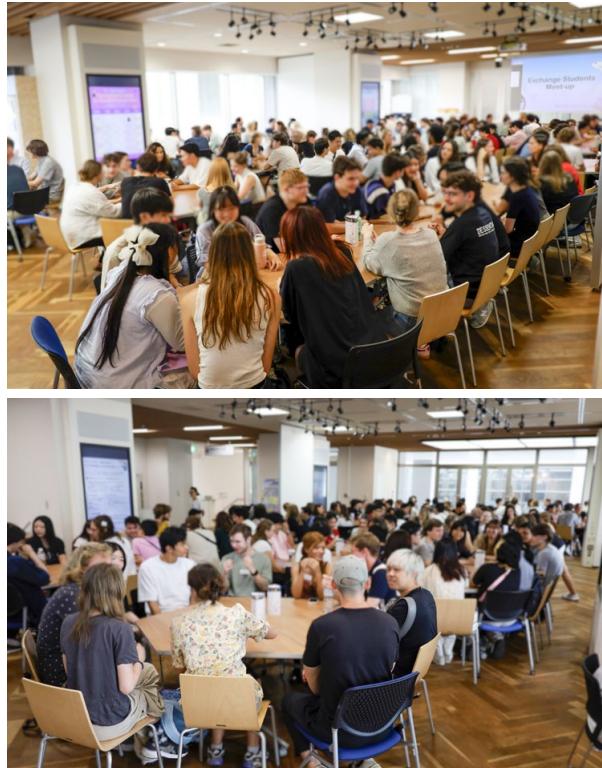
本学では、海外の約150の協定校と大学間学生交流協定を結び、年間約300人の交換留学生を受け入れています。国際教育交流課では、**来日した交換留学生と、先学期より継続して本学に在籍する交換留学生、国際交流にある本学学生の交流の機会として、Exchange Students Meet-up! を毎学期開催しています。**

2025年後期は、9月30日に国際高等教育部棟にて開催しました。イベントには、**交換留学生152名と本学学生15名の167名が参加**し、10分毎のベルの音で席替えを行い、多くの人と話す機会を設けました。イベント後には、新たにできた友達同士で連絡先を交換する様子も見られ、良い国際交流の機会となりました。

参考：これまでに開催されたイベントの様子は以下ウェブサイトでご覧いただけます。



<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/students2/campus/peer/events>



●オンライン言語交換（Online Language-exchange）

国際教育交流課では、**異なる言語を使用する学生同士がお互いに言語を教え合い交流するためのプラットフォームであるオンライン言語交換（Online Language-exchange）のサービスを提供**しています。例えば、英語を学びたい学生（母国語：日本語）が、日本語を学びたい学生（母国語：英語）を語学習のパートナーとして探すことができます。もちろん英語以外の言語も可能です。観光や留学、研究などに向けて語学を学び、多文化への理解を深め、新たな友人を作る場として活用していただけます。本学学生限定です。以下WEBサイトから利用登録が必要です。



<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/students2/campus/peer>



 Kyoto University
Division of Graduate Studies
京都大学大学院教育支援機構



<https://www.kugd.k.kyoto-u.ac.jp/>

 ILAS
INSTITUTE FOR LIBERAL ARTS AND SCIENCES



<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>

●お問合せ
京都大学学務部企画掛
〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町1 東一条館
Mail: graduate_studies_office@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp